

## 発掘調査の成果

●弥生時代後期（今から約 1800 年前）： 溝、弥生土器

●古墳時代（今から約 1600 年前）： 竪穴建物跡、旧河道

竪穴建物跡が 2 棟見つかりました。2 棟とも方形（四角形）のかたちに平面形が作り出されています。2 棟のうち、1 棟には煮炊きなど調理に使用されたカマドが作られています。もう 1 棟は床面から炭化した屋根材が出土しており、当時火事にあった焼失住居であると考えられます。

旧河道（昔の川跡）からは竪穴建物で人々が生活していた頃の土器が見つかりました。この旧河道の真横には、平坦に作り出された面があり、炭化物と共に小形の壺などがまとまって見つかりました。これは川の近くで祭祀を行っていた痕跡であると考えられます。

●奈良時代（今から約 1200 年前）： 掘立柱建物、焼土坑、土坑、柱穴

調査区の南西側では、柱穴が多くみつかり、掘立柱建物が少なくとも 2 棟以上復元できます。この建物の柱穴は、通常のものよりも大きく、居館や倉庫であった可能性も推定されます。この建物から東へ 10 m ほどの土坑からは、須恵器の蓋の裏側を硯として再利用した転用硯が見つかりました。この転用硯には墨の痕跡も見られ、役人が近くに住んでいたと言えます。

また、北東隅では焼土や炭化物が多量に見つかった焼土坑が隣り合って 2 基見つかりました。詳細な用途は分かりませんが、鉄製品などを加工するための鍛冶関連の遺構であると推定されます。

●平安時代（今から約 900 年前）： 掘立柱建物、溝、土坑、柱穴

南北方向に流れる溝と、それに直行する東西方向に流れる溝が見つかりました。これらの溝は集落の中と外を画する区画溝であると考えられます。この区画溝の内側には柱穴が多く見つかり、掘立柱建物が復元できます。

平安時代頃の味間地区は、「味間二品勅旨田」と呼ばれる親王（皇室）領の荘園であったとされており、今回見つかった区画溝や掘立柱建物はこの荘園と何らかの関係性が想定されます。

●鎌倉時代（今から約 700 年前）： 木棺墓、土器埋納土坑

木棺墓は 2 基見つかりました。そのうちの 1 基からは、副葬品である中国で作られた白磁の碗と鉄製小刀、須恵器が見つかりました。また、中央付近で見つかった土器埋納土坑からは、須恵器と土師器が重なって見つかりました。



兵庫県教育委員会・(公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

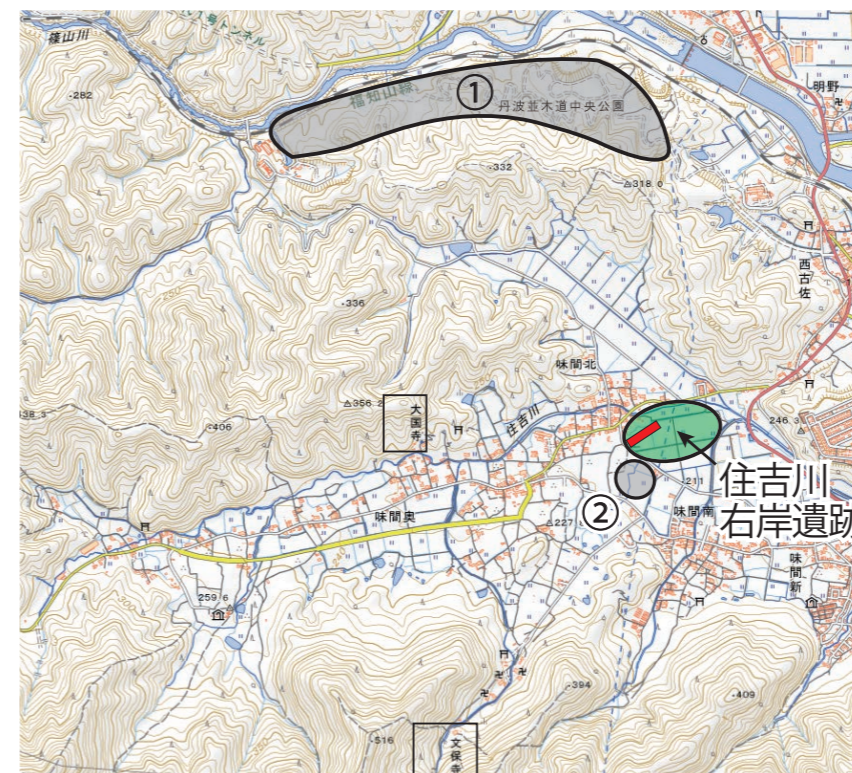
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1 兵庫県立考古博物館内

URL: <https://www.hyogo-ctc.or.jp>



### 北東側上空からみた調査地と味間地区

丹波篠山市味間南で実施した住吉川右岸遺跡の発掘調査では、弥生時代～鎌倉時代にかけて連綿と続く集落跡が見つかりました。



住吉川右岸遺跡は、加古川水系篠山川の支流である住吉川の右岸に位置し、市域西側の西脇市を隔てる山塊に端を発する扇状地上に立地します。

周辺の代表的な遺跡として、丹波並木道中央公園整備に伴う調査で見つかった三釈迦山北麓遺跡群(①)では、弥生時代～古墳時代の集落跡と古墳が、圃場整備に伴う調査で見つかった味間南遺跡(②)では弥生時代～鎌倉時代の集落跡が見つかりました。

また、味間地区では大化年間(645～650年)に建立されたとされる文保寺や大国寺など古刹もみられ、歴史文化豊かな土地であるといえます。



奈良時代の柱穴群と溝・旧河道



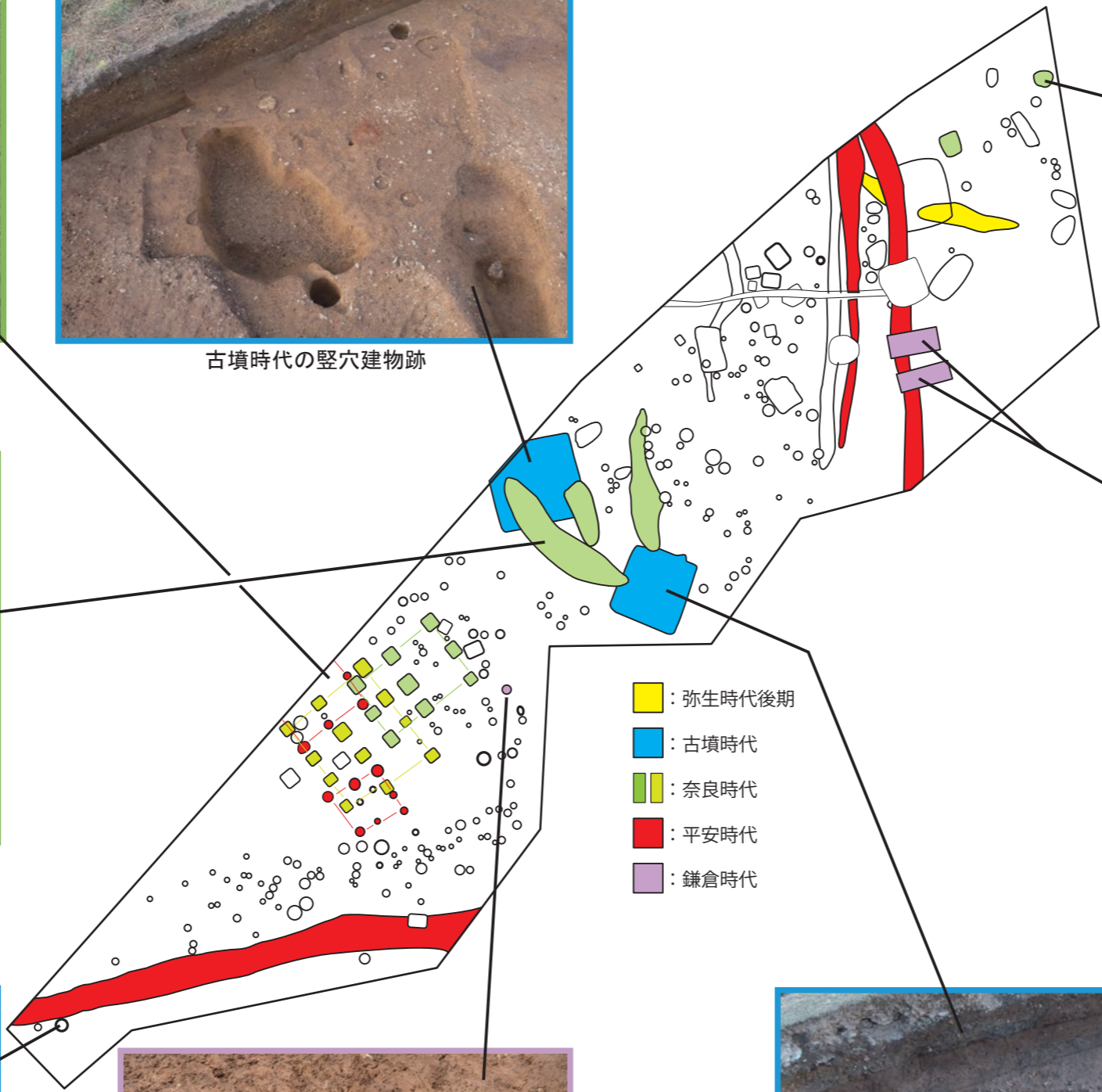
古墳時代の竪穴建物跡



焼土と炭化物が多量に見つかった奈良時代の焼土坑



奈良時代の土坑から見つかった須恵器蓋転用の硯



2基並んで見つかった鎌倉時代の木棺墓



古墳時代の土師器（高坏）が見つかった土坑



須恵器と土師器が重なって見つかった鎌倉時代の土器埋納土坑



古墳時代の焼失住居（右写真は炭化した屋根材）

